設楽発掘通信

No.62
令和３年
５月号

令和三年度の発掘調査が始まります

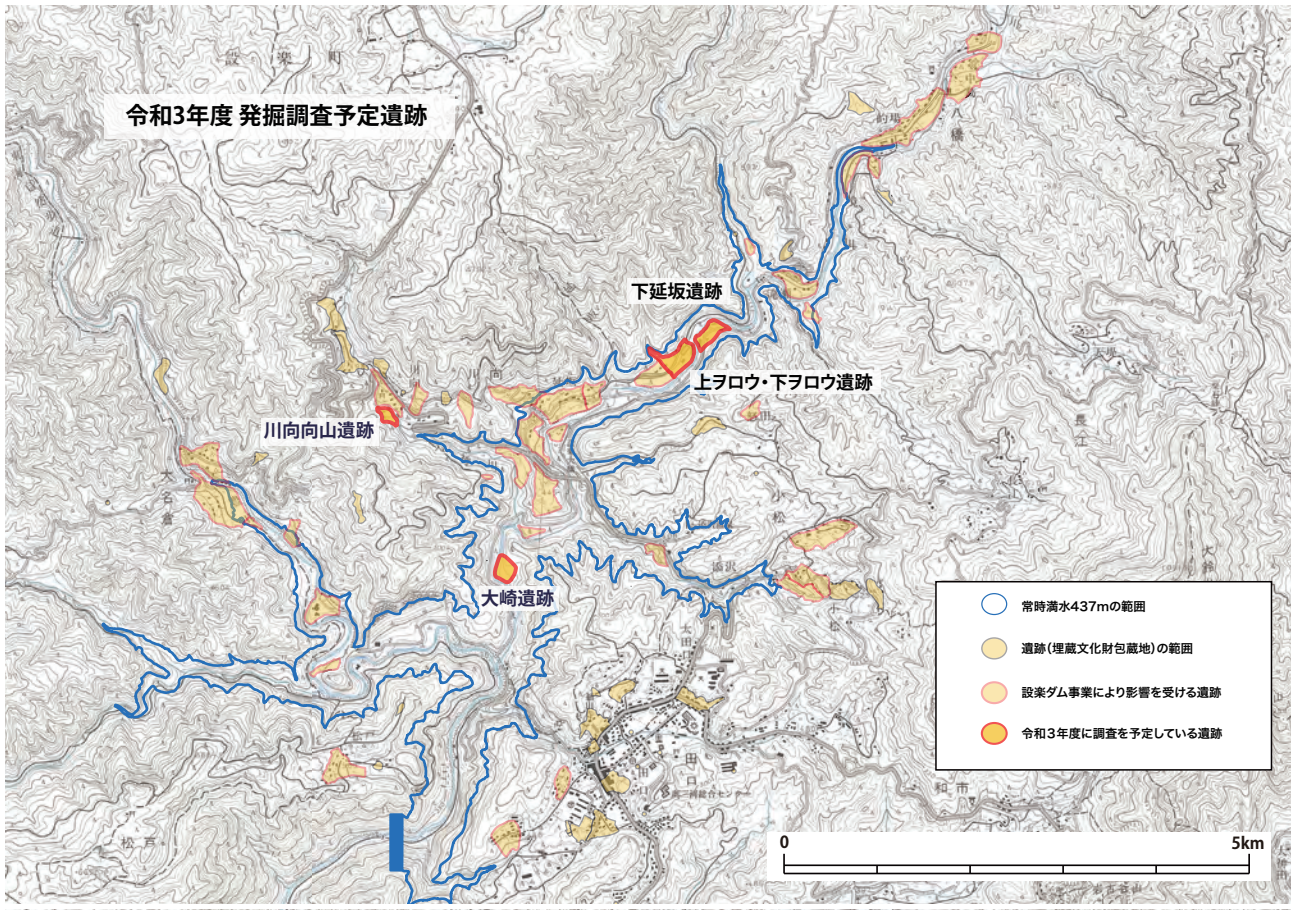
これまでと同じく，今年度も設楽ダムに関わる発掘調査を愛知県埋蔵文化財センターが中心となって実施して参ります。設楽ダムに関連する工事予定地や水没する地区には数多くの遺跡がありますが、工事によって壊されたり水没したりする遺跡については、出土遺物と遺構などの記録を残す必要がありますので、発掘調査を行ないます。

令和三年度は、本調査を行なう必要がある区域を調べる本発掘調査Ａ（いわゆる範囲確認調査）と、滅失する遺跡全体を対象とする本発掘調査Ｂ（いわゆる本調査）の両方を実施致します。本発掘調査Ａを行なう遺跡は川向地区の川向向山遺跡で、本発掘調査Ｂを行なう遺跡は川向地区の上ヲロウ・下ヲロウ遺跡、下延坂遺跡と、田口地区の大崎遺跡の合計四遺跡です。

発掘調査を担当する調査員は、樋上昇・川添和暁・渡邉峻・河嶋優輝・社本有弥・酒井俊彦・宮腰健司の七名で、株式会社イビソクの支援を受けて進めて参ります。調査を円滑に行なうには、地元の皆様方のご理解とご協力が何より大切だと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

また、発掘調査を終えた遺跡の整理・報告書作成業務については、平成二十九年度に発掘調査した小松地区のマサノ沢遺跡（永井宏幸が担当）、平成三十年度と令和元年度に発掘調査した川向地区の石原遺跡（田中良が担当）、大名倉地区で平成二十七年度に発掘調査した大名倉丸山遺跡（武部真木が担当）と令和二年度に発掘調査した胡桃窪遺跡（鈴木恵介が担当）、令和二年度に発掘調査した田口地区の添沢遺跡（河嶋優輝が担当）の合計五遺跡です。また、小松地区の笹平遺跡と川向地区の大栗遺跡の二遺跡については、本年度末に発掘調査報告書を刊行する予定です。

発掘調査にあたっては、これまでと同様に設楽町田口の旧設楽保健所の愛知県埋蔵文化財センター設楽事務所を拠点として、この「設楽発掘通信」を発行し、各遺跡の地元説明会や新設楽発見伝などを通じて皆様方に調査の成果をお知らせする予定ですので、どうぞご期待ください。（樋上昇）



令和三年度の調査員紹介
今年度は私たちが担当します。

調査課長
鈴木正貴

二〇〇九年の範囲確認調査以来、本年度が七回目の担当となります。普段は弥富にいますが、月に一回程度は調査区にお邪魔します。専門は中近世考古学で、集落や都市の変遷を研究しています。

主任専門員
樋上　昇

五年ぶりに設楽に戻ってきました樋上 昇です。前回は川向東貝津遺跡と大栗遺跡の調査を担当しました。本年度は設楽地区の統括を担当します。おもに弥生～古墳時代の木製品を研究しています。よろしくお願い致します。

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡を担当

調査研究専門員
川添和暁

考古学を学問的背景とする埋蔵文化財調査は、常に新しい発見に満ちあふれています。しっかり調査して、いち早く皆様にお伝えできれば、と思います。

調査研究主任
酒井俊彦

設楽ダム関連遺跡の調査に関わるのは今年で通算四年となります。上ヲロウ・下ヲロウ遺跡と大崎遺跡の担当です。今年度はじめて本発掘調査となる大崎遺跡がどのような調査になるのか楽しみです。

下延坂遺跡を担当

調査研究主事
河嶋優輝

設楽担当は連続三年目になります、河嶋と申します。これまで、主に万瀬遺跡や添沢遺跡を担当し、今年度は下延坂遺跡と大崎遺跡の調査を担当します。よろしくお願いいたします。

調査研究主事
渡邉　峻

昨年に引き続き、今年度も設楽関連遺跡の担当になりました渡邉峻です。担当は下延坂遺跡と、大崎遺跡となります。今後の設楽発掘通信や、地元説明会などで発掘の成果を皆さんにお知らせ出来る様に、頑張らせて頂きます。よろしくお願いします。

大崎遺跡を担当

調査研究主事
社本有弥

今年度初めて設楽ダム関連遺跡の調査を担当します。専門は旧石器時代のナイフ形石器文化期ですが、竪穴建物跡について興味があります。

調査研究嘱託員
宮腰健司

昨年度の調査ではこの地方では貴重な弥生時代中期の遺構・遺物が見つかりました。今年度の調査でもと期待しています。

自然科学分析を担当

調査研究専門員
鬼頭　剛

地層から遺跡の立地場所の成り立ちを調べています。発掘が終わりに近づくころ、調査区にお邪魔をします。

新設楽発見伝7について

毎年、三月初旬に開催していました、設楽ダム関連発掘調査成果報告会『新設楽発見伝』ですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和二年度もこれまでの形での開催ができなくなってしまいました。本来であれば、実際の出土資料を見て頂いた上で、発掘調査成果を、皆様に直接お届けするのが、最善と考えております。しかし、令和二年度『新設楽発見伝7』を何とか開催できないものかと思い、オンラインでの開催を企画し、皆様には昨年二月にご案内申し上げたところです。

オンラインによる報告会は、三月六日から三月三十一日まで、開催致しました。令和元年度に実施予定でした遺跡の報告も合わせまして、十件の動画コンテンツをご用意しました。可能な限り、これまで実施してきた成果報告会の形式を保ちつつ、カメラの向こう側で視聴して頂いている皆様に語りかけるように心がけたのですが、どうしても表情が硬くなりがちになってしまいました。今後、可能であれば、皆様に直接お伝えする形にできればと考えおりますが、状況によっては地元説明会も含めてオンラインでの配信も継続して行われるかもしれません。我々としても日々、工夫できればと考えておりますので、オンラインをご覧になられた方で、ご感想があれば、是非、愛知県埋蔵文化財センターまでお知らせ下さい。

期間が終了したため、現在はこの動画コンテンツを見て頂くことはできませんが、例年通り、印刷資料は作成しております。A4判カラーで三十二頁にわたるもので、オンラインによる講演会を聞き逃してしまった方にも、十分にお伝えできる内容になっていると思います。こちらは今まで同様に、愛知県埋蔵文化財センターのホームページからダウンロードできますので、よろしければ、是非、アクセスしてみて下さい。印刷資料自体は、町の教育委員会あるいは愛知県埋蔵文化財センター設楽事務所（旧設楽保健所建物内）にもありますので、冊子をご希望の場合は、いずれかに直接お越し下さい。

昨年度の出土資料は、現在、「やとみ新発見展2021」として、愛知県埋蔵文化財調査センター内で速報展示をしています。諸状況を見て、お越し頂ければと存じます。

（川添和暁）

図　『新設楽発見伝７』の動画コンテンツ

写真２　『新設楽発見伝７』配付資料

本誌は、愛知県埋蔵文化財センターホームページからダウンロードできます。是非、アクセスしてみて下さい。

マサノ沢遺跡の室内整理経過報告

二〇一七年度の発掘調査では、縄文時代後期と縄文時代晩期後半から弥生時代前期を中心とする遺構と遺物が見つかっています。特に縄文時代後期前半のハート形土偶の部が出土したことは、ニュースなどに取り上げられ、話題となりました。

さて、二〇二〇年度からはじめた室内整理作業は、今年度で二年目をむかえました。ここでは昨年度の整理作業の成果として、弥生時代前期（約二五〇〇年前）の墓に使用された容器（土器棺）を紹介します。

墓に使用された土器は、日常的に使われた土器を再利用されている場合が多いとかんがえられています。写真の土器は煮炊きに使う深鉢形土器です。表面を観察すると、おコゲなど煮炊きの痕跡があります（写真中央黄色枠内）。このおコゲ（炭化物）を分析すると何年前に使ったのか（放射性炭素年代測定）、何を燃やしたのか（炭素・窒素安定同位体比分析）などがわかります。年代測定の結果、^{14}C年代値は2415±20 14CBPと判明し、おおよそ二五〇〇年前に使っていたとかんがえられます。燃やしたものは、C4植物に由来する炭化物と推定されています。C4植物には様々な種類があります。その中でも弥生時代は稲作の始まった頃で、多くは稲わらなどを燃やしたとかんがえられます。

調査時の出土状態は、棺の本体（写真の土器）を横倒しに置き、数個体分の土器を割り、口の部分の破片を中心に利用して覆いかぶせていました。使用された土器は丹念な接合作業の結果、五個体分の深鉢であると判明しました。土器を接合・復元した結果、改めて分かったことがあります。それは写真の土器に口の部分が一部欠けていることと、底がないことです。割れ口が四角になっていることと、この部分の破片がなかったことから、口の欠けた箇所は偶然ではなく故意に割った可能性があります（写真の緑色枠内）。底は同様に破片が見つからなかったことから、埋設する前から打ち欠いていたと推定されます（写真の赤枠内）。このように、日常で使用した土器を再利用、あるいは墓に使用する土器は、口の部分や底部などに孔を穿つ場合が多いようです。

今回紹介した土器棺墓以外にマサノ沢遺跡では四例の墓を確認しています。いずれも日常の土器を再利用しているようです。縄文／弥生移行期における葬送の風習をかんがえるうえで貴重な類例となりました。

（永井宏幸）

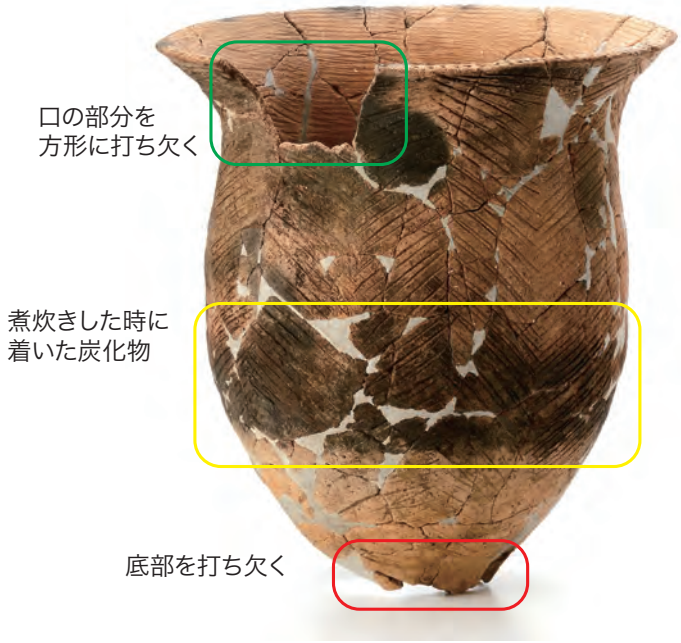


写真３　マサノ沢遺跡出土の土器棺

設楽発掘通信
No.62　令和３年５月号
編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24
電話 （0567）67-4161【管理課】4163【調査課】
ホームページ http://www.maibun.com
Facebook https://www.facebook.com/maibunaichi
Twitter https://twitter.com/aichi_maibun
印刷・協力　株式会社イビソク